

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第 876 号 平成 27 年 2 月 6 日

## ソーシャル世代

今、1980年代以降に生まれた世代を指して「ソーシャル世代」というのだそうです。

「ソーシャル」というのは「社会（社交）的」という意味ですが、1980年代以降生まれの世代は、「ソーシャル」に対する関心が高く、社会に役立ちたいという意識が強いとされています（平成26年11月9日付日本経済新聞から）。

これまでも、それぞれの時代背景を基に、ある世代を象徴する言葉が生まれて来ました。

その主なものを紹介すると

- ・ 1947年～49年生まれの「団塊世代」
- ・ 1950年～64年生まれの「しらけ世代」
- ・ 1961年～70年生まれの「新人類」
- ・ 1987年～2004年生まれの「ゆとり世代」

この「ゆとり世代」を指して「さとり世代」と称する人もいます。

古くは、1935年～46年生まれの「焼け跡世代」というものもあります。私は、1946年（昭和21年）生まれですから団塊世代ではなく、「焼け跡世代」の最後という事になりそうです。確かに、物心ついた時に見た風景には、戦中から敗戦直後の様子を物語る建物等がまだあった事を覚えています。

話が横道に逸れてしまいましたが、それでは何故、1980年代以降に生まれた人の事を「ソーシャル世代」と呼ぶのでしょうか。

1980年代以降に生まれた人の特徴は、高度成長もバブル景気も知らない世代です。彼等は、生まれた時からバブル崩壊後の不景気に晒され、1991年以降の「失われた20年」の中で成長した世代で、上述の「ゆとり世代」や「さとり世代」とも重なっています。

彼等は、欲がないとか、何事にも後ろ向き、と評価されがちですが、一方で、ソーシャルメディアを使って社会的なネットワークを作る事にたけているという一面も持っており、横の繋がりは私とは比較にならない程広いように感じます。

また、「ソーシャル世代」は、社会に対する貢献意識も高いようです。

2013年（平成25年）に行われた厚生労働省の「若者の意識に関する調査」によると、「社会のために役立つことをしたいと思うか」について聞いたところ、そう思う（20.8%）、どちらかというと思う（59.2%）と、多くの若者が

肯定的に答えています。

また、「これからは心の豊かさか物の豊かさか」を聞いたところ、64%の若者は「心の豊かさ」と答えており、「物の豊かさ」と答えた若者（30.1%）の倍になっています。

これは、物質的には必ずしも報われなくても、社会に貢献するために行動する事で得られる精神的な満足を大事にしたい、という事だと思います。実際、3・11（東日本大震災）の際に、ボランティアとして被災地支援のために生き生きと活動する多くの若者達の姿を見て感動しましたが、「ソーシャル世代」の若者にとってそうした行動は、特別の事ではないのかも知れません。

また、若者達の社会貢献への意識は、国内だけに止まりません。

日本経済新聞（平成26年11月9日付）でも紹介されていますが、エイチ・アイ・エス(HIS)という会社が、2009年にバングラデシュで社会貢献や現地学生との対話を体験できるツアーを始めたところ1年余りで1000人が参加するというヒット商品になったそうです。

ソーシャル世代の女性（三村真佑美さん）のブログを見ておりましたら、「ソーシャル世代は、親の愛情や優しさに包まれて育てている分、比較的思いやりのある人が多いと感じる」「世の中の世知辛さや厳しさに関しては甘い点もあると思いますが、それでも『人のために』という気持ちは他の世代より強いと思う」と述べています。

また、彼女はこうも述べています。

「この世代も決して消費や起業が嫌いなわけではなく、自分の価値観に沿ったものであれば、高額の出費・投資も惜しみなくすると思います。」

「ソーシャル世代」に対しては、先程も述べたようにネガティブな評価をしがちですが、社会貢献に対する意識の高さに着目すると、別の姿も浮かんで来ます。特に、ソーシャルメディア等を活用してフラットなネットワークを広げ、そこから自分のやりたい事を見出し、行動していく力は、「ガラケー世代」の私にとっては悔しいけれども真似できません。

「社会のために貢献したい」という「ソーシャル世代」の力を如何に社会の中で発揮させるか、これは、企業のみならず日本の将来にとっても大きな課題だと思います。（塾頭：吉田 洋一）